

『田辺市地域運営会議 分科会』が開催されました。

去る5月25日「田辺市地域運営会議」で開催することとなった「分科会」が、田辺市役所第4委員会室において開催されました。

「景観活動グループ」「歴史・文化活動グループ」「観光活動グループ」「情報活動グループ」の4つのグループに分かれて実施されました。

●田辺市地域運営会議 分科会とは。。

田辺市地域運営会議には27団体という参加団体が所属し、団体の活動の種類も様々であったことから、分科会形式で会議を行うこととし、10月に入り分科会を実施するためのアンケート調査を参加団体にご協力頂き、4つの分科会を設立し、第1回の分科会を行いました。円滑で効果的な活動を実施するために試行錯誤ではありますが、今後も継続したいと考えています。



■分科会の話題は。。

分科会では、平成18年3月20日の推進協議会発足後以降に実施された活動の報告とこれからの活動(集中月間の提案)について、意見交換が行われました。

～ 議 事 内 容 ～	開催スケジュール
1. 挨拶 2. これまでの活動について ① 推進協議会の活動報告 ② 具体的な取り組み 広報活動：ホームページ、テレビ、新聞 様々な活動紹介 専門家の視察 3. アンケート結果の報告について 4. グループ分けについて 5. これからの活動について 集中月間の実施について 6. 地域、4分科会の代表者の選出	○12日 10:00～ 観光活動グループ ○12日 14:00～ 情報活動グループ ○13日 10:00～ 歴史・文化活動グループ ○13日 14:00～ 景観活動グループ

■各活動グループの代表者が決まりました！

●田辺市地域運営会議分科会の各活動グループの代表者が決まりました。

●これからは、各活動グループの代表としてご活躍頂きます。

また、グループ代表者で互選頂き田辺市の代表者を選出して頂きます。

- [観光活動グループ]
・畑上さん(田辺観光ボランティアガイドの会)
- [歴史・文化活動グループ]
・調整し、後日決定
- [情報活動グループ]
・調整し、後日決定
- [景観活動グループ]
・小松さん(うた加楽衆)

■参加団体の皆様から、沢山のご意見がありました。

事務局から集中月間の実施の提案を行いました。

●集中月間(11月)の実施

- ・ロゴマークコンテスト、フォトコンテストの実施について。
- ・HPの更新の協力。紙媒体作成のための情報提供と設置場所の提供など広報活動の強化について。
- ・SBW参加団体の現地景観調査・評価を実施について。
- ・「いつでも、どこでも、だれでも」観光情報等が入手できる「世界遺産熊野古道ナビプロジェクト」の実証実験実施について。
- ・11/19に近露地区で行われる「田舎版オープンカフェ」実施について。

参加団体の皆様から沢山の意見・ご提案を頂きました。その一部を紹介いたします。

(裏面には詳細なご意見を分科会毎にご紹介いたします。)

- ・景観評価には「田辺市まちあるき」と合わせた実施を検討したい。(田辺観光ボランティアガイドの会)
- ・大きな目標が必要。何かやるべき事があれば、結束すると思う。(大塔村世界遺産プロジェクト)
- ・無線やカードを使った広報・PRに協力したい。(紀州路田辺ハムクラブ)
- ・自生種を植える活動をしてはどうか。(つれもてネット南紀熊野)
- ・田辺西バイパス、田辺ICにウバメガシ(田辺市の木)の植樹などを行い、シンボリックな整備をしてはどうか。(南紀田辺世界遺産フィルムコミッション)
- ・ラジオ放送などで集中月間をアピールすることは可能。(情報発信センター田辺)
- ・シーニックの内容が小さくなっていないか？大きなビジョンを掲げよう！(市民活動ネットワーク田辺)
- ・分科会は縦割り(活動テーマ別)ではなく、横断的にした方がより連携が図れるのでは。(南方熊楠顕彰会)
- ・紀南全体を紹介出来るマップがない。訪れた人に紀南全体を案内出来るマップが欲しい。(漂探古道)
- ・景観の考え方に多種多様があるのは当たり前。これをどうしていくかが大切な事。(花つぼみ)
- ・景観の“美しさの基準”とは何かを考えるべき。自然を優先させる道づくりの時代と思う。(うた加楽衆)
- ・建築とシーニックとの関係がいまだに理解できていない。(建築士会田辺支部)
- ・紀南シーニックの理念はやはり必要。お互いを良く知るために地域運営会議は重要だと思う。(天神崎の自然を大切に作る会)

■お忙しい中 会議に参加して頂きました。

- | | |
|---|--|
| 【観光活動グループ出席者】
○ 田辺観光ボランティアガイドの会
○ 田辺商工会議所
○ 大塔村世界遺産プロジェクト | 【歴史・文化活動グループ出席者】
○ 南方熊楠顕彰会
○ NPO法人漂探古道 |
| 【情報活動グループ出席者】
○ 紀州路田辺ハムクラブ
○ NPO法人 つれもてネット南紀熊野
○ 南紀田辺世界遺産フィルムコミッション
○ NPO法人 情報発信センター・たなべ
○ NPO法人 市民活動ネットワーク田辺 | 【景観活動グループ出席者】
○ NPO花つぼみ
○ うた加楽衆
○ 建築士会田辺支部
○ (財)天神崎の自然を大切に作る会 |
| 【行政関係者・事務局】
○ 紀南河川国道事務所 工務課 ○ 和歌山県 道路政策課 ○ 田辺市 広聴広報課
○ 紀南河川国道事務所 田辺国道維持出張所 ○ 和歌山県 西牟婁振興局建設部 ○ 近畿建設協会 | |

■今後の地域運営会議の予定

10月中に11月の集中月間に向けた地域運営会議の実施を予定しています。

「日本風景街道 熊野」推進協議会の活動に関するご意見・お問い合わせは

「日本風景街道 熊野」推進協議会事務局

和歌山県 県土整備部 道路局 道路政策課 TEL: 073-441-3116 FAX: 073-441-3107
 国土交通省 紀南河川国道事務所 工務課 TEL: 0739-22-4564 FAX: 0739-26-1641

各活動グループでは、本当に活発な意見交換が交わされました。

・SBWそのものの理解促進の必要性や、グループ分けの在り方など、日本風景街道の活動全体、また田辺市地域の活動に関する厳しいご意見や、集中月間実施については、それぞれの団体が参加・協力できる事柄のご提案を頂きました。

■観光活動グループでの主な意見

- ・地道な活動が大事であると思っている。企画立案や今ある活動等、汗を流してやっていきたい。
- ・要望を聞いて、これを解決するだけではただの陳情に終わる。イベントをやって、それで満足するのでは意味がない。人と人との繋がりが大事。団体間の壁を無くすための共通の目標が必要と思う。
- ・田舎版オープンカフェや景観評価等、出来る所から協力したい。詳細の連絡や調整を行ってほしい。
- ・行政はもっと横の繋がりを持っていて欲しい。(以上 田辺観光ボランティアの会)
- ・スポーツを通じた交流を考えている。
- ・方向性がわかりにくい。目指しているところがわからない。予算等もわからない。
- ・大きな目標が必要。何かやるべき事があれば、結束すると思う。
- ・「〇〇をしたい」があれば「□□はどう？」という返しはできる。(以上 大塔村世界遺産プロジェクト)
- ・未だに方向性がわからない。支援(資金的なところ)が不明確。(田辺商工会議所)
- ・地域の発議からいろいろな取り組みをするという、原点に戻って進めたい。(県西牟婁振興局建設部)
- ・直接的な資金投資を、みんな期待していた処はあった。(田辺市 広聴広報課)

■地域で「やれる事」。集中月間に向けてのご意見。

- ・田舎版オープンカフェを行うのであれば、近露付近で“山歩き”してカフェへ促す等の連携が考えられる。
- ・景観評価についても、街歩きと一緒にやる様な連携も考えられる。(以上 田辺観光ボランティアの会)

■情報活動グループでの主な意見

- ・シーニックの取り組みは、参加団体それぞれがバラバラなことを思っているはいけない。(紀州路田辺ハムクラブ)
- ・名称の決定は現在の案を一度参加団体に周知してから決定すべきではないか。
- ・自生種を植える活動などは出来ないか。(以上 つれもてネット南紀熊野)
- ・ロゴマークコンテスト・フォトコンテストは是非やって欲しい。
- ・田辺西バイパス、田辺ICにウバメガシ(田辺市の木)の植樹など、シンボリックな整備をしてはどうか。
- ・道路に設置しているカメラの映像をHPに載せられないのか。
- ・旧道のビューポイントに導く標識整備はどうか?人通りがあれば、不法投棄の防止効果も期待出来るのでは。
- ・脇道に案内する際には、1車線なのか1.5車線なのか等の情報を発信してあげると「訪れる人」に親切。
- ・北海道で、どういう経緯でやって来たか等、先進事例を聴ける機会があってもよいのでは。
- ・熊野古道ナビは携帯電話の電波状態が気になる。(以上 南紀田辺世界遺産フィルムコミッション)
- ・シーニックの活動が小さくなっていないか。元々はもっと大きなビジョンがあったと思う。

(市民活動ネットワーク田辺)

■地域で「やれる事」。集中月間に向けてのご意見。

- ・「幸福のスイッチ」のロケ場所の情報提供などシーニックHPでリンクして広報して頂きたい。(南紀田辺世界遺産フィルムコミッション)
- ・無線やカードの作成など、広報活動に参加できるのではないかと考えている。(紀州路田辺ハムクラブ)
- ・ラジオ放送などで集中月間のアピールは可能である。(情報発信センター田辺)

■歴史・文化活動グループでの主な意見

- ・分科会形式にするのは良いが、各団体がどんな活動をしているのか分かりにくい。連携が図りにくい。
- ・「観光」と「歴史・文化」という両面を持った活動なので、この分科会でくくるのは難しい。メンバーと相談して、方向性を考えていきたい。(以上 漂探古道)
- ・分科会は縦割り(活動テーマ別)ではなく、活動グループを横断的にした方がより連携が図れるのではないか。
- ・現在のシーニックの活動は全体として何をやっているのかわからない。わかりにくい。
- ・意見があっても何処の、誰に言っても良いのかわからない。現在は、事業立ち上げ当初のコアな人達の存在が非常に薄れ、無視されているような気がする。(南方熊楠顕彰会)

■地域で「やれる事」。集中月間に向けてのご意見。

- ・道の駅で観光客への案内役を始めてから気づいたが、紀南全体を紹介出来るマップがない。特に、中辺路ルート沿いや龍神方面、又は奈良や三重に続くルートの案内も無い事に気づいた。情報や材料を提供しあってマップを作り、行政にはこの支援をお願いしたい。
- ・11月以降、清掃活動と同時に無料案内を行うことを考えている。
- ・11/19近露オープンカフェ時に、近露付近や道の駅で活動を依頼されているが、語り部としての活動は予定していない。今回は“山歩き”との連携はちょっと難しい。(以上 漂探古道)
- ・東京の国立科学博物館で「南方熊楠」(10/7~11/26)のイベントを行う。(南方熊楠顕彰会)

■景観活動グループでの主な意見

- ・行政とNPO等の活動団体との連携の指針のようなものを提示して頂きたい。
- ・風景とは人々の暮らしがあってそこから出てくるもの。生活を変えてまで自然を守るという強制は困難では。
- ・景観の考え方に多種多様があるのは当たり前。これをどうしていくかが大切な事。(以上 花つぼみ)
- ・教育的立場から自然環境の保護を広めている。本宮までじっくり自然環境の話をしながら歩く活動をしている。
- ・シーニックスポットを整備しても、そのスポットを繋ぐ道の景観が悪ければ、博物館巡りになってしまう危険性がある。それらを繋ぐ道路も含んだ「面」として景観を捉えるべきである。
- ・古道沿いの民家が洋風だと訪れる人がガックリする事がある。規制や指導が必要と考える。
- ・景観を考える際には“美しさの基準”とは何かを考えるべきである。自然を優先させる道づくりの時代に入ってきていると思う。(以上 うた加楽衆)
- ・建築とシーニックとの関係がいまだに理解できていない。(建築士会田辺支部)
- ・近露の古民家をどうにかしたい。建築士会の方で案内や管理の指導等ができないか。(県庁 道路政策課)
- ・景観とは、歴史や文化を根拠としたものであるという事を大事にしたい。
- ・現在の古道周辺の自然は本当の自然ではない。天神崎をみて、これが本当の自然だと感じて貰える様にしたい。
- ・紀南シーニックの理念はやはり必要。お互いを良く知るために地域運営会議は重要だと思う。
- ・各団体が個別に活動しても仕方がないとする。(以上 天神崎の自然を大切に作る会)

■地域で「やれる事」。集中月間に向けてのご意見。

- ・10/29にコスモス祭りをを行う。(出展、フリーマーケット、ストリートミュージックライブ、茶席等)
- ・紀南でコスモスサミットを開いてみてはどうか。(以上 花つぼみ)
- ・11/26(日)にパピリオンシティの所で耐震診断イベントを行い、紀州材を使用したプランター作り(無料)を行う。(建築士会田辺支部)
- ・子供たちと環境学習を行う。12/3 ごみ調査、ダイバーによる海中ごみ拾い、2月に田辺市内の小・中学生が描いた風景画の展覧会などを予定している。(天神崎の自然を大切に作る会)